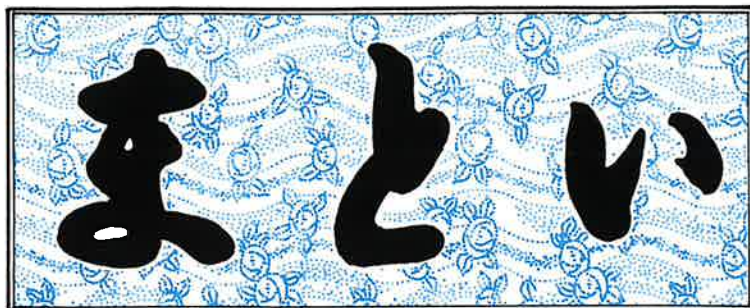




令和 7.3.28発行

第52号

第77回長崎県消防団大会 (吉崎市)



時津町消防出初式

第30回全国消防操法大会
(宮城県利府町県運動総合公園グラウンドイ21)



第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会



大村市消防団出初式 観閲・分列行進

令和 7 年度 全国統一防火標語

急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし

消 防 人

最高の栄誉に輝く各種表彰

おめでとうございいます

皆様方には長年にわたり消防業務に精励され、その業績を高く評価されて表彰されました。この栄誉の陰にはご家族のご理解、ご協力があればこそと存じます。心からお祝いを申し上げますと共に、今後のご活躍とご健勝をお祈りいたします。

春の叙勲

(令和六年四月二十九日)

秋の叙勲

(令和六年十一月三日)

瑞宝双光章

元東彼杵町消防団団長 有川 末好

元長崎市消防団団長 佐々木眞登己

元西海市消防団団長 濱上 學

元時津町消防団団長 峰 善行

元平戸市消防団団長 森 能範

元大村市消防団団長 山浦 弘之

瑞宝単光章

元壱岐市消防団団長 岩永 章

元長崎市消防団分団長 岡部 栄一

元佐世保市消防団副分団長 田口 満

元福江市消防団副分団長 竹田 昇

元佐世保市消防団副分団長 堤 康隆

元対馬市消防団副分団長 津留 史好

元五島市消防団分団長 橋口 卓臣

元長崎市消防団副分団長 濱崎 健吾

元鷹島町消防団副分団長 村田 末廣

元小値賀町消防団副分団長 山崎 忠雄

元佐世保市消防団副分団長 山田 達美

瑞宝単光章

元佐世保市消防団副分団長 赤木 行秀

元平戸市消防団副分団長 井元 伸治

元五島市消防団副分団長 今利進一郎

元新上五島町消防団副分団長 植村 徳一

元長崎市消防団副分団長 浦 英二

元壱岐市消防団副分団長 江口 豊次

元佐世保市消防団副分団長 須崎 近

元佐世保市消防団分団長 都知木孝明

元長崎市消防団分団長 西村 正廣

元長崎市消防団分団長 藤本勇太郎

元長崎市消防団分団長 松尾 隆

元長崎市消防団副分団長 松永 初彦

元対馬市消防団副分団長 松本 平治

元西海市消防団副分団長 水谷 正生

元平戸市消防団副分団長 吉永 武利

内閣総理大臣表彰

自治体消防制度七十五周年

(令和六年十一月二十九日)

雲仙市消防団団長 川上 清記

安全功労者

(令和六年七月一日)

上田の浦赤松婦人防火クラブ

総務大臣表彰

十人町1の組婦人防火クラブ

(令和六年七月十八日)

消防庁長官表彰

(令和七年三月五日)

永年勤続功労章

佐世保市消防団団長

石丸美津留 外四十二名

竿頭綬

島原地域広域市町村圏組合消防本部・南島原市消防団

県民表彰

(令和六年十一月二十三日)

消防・防災功労

長崎市消防団団長

長崎市消防団副分団長

佐世保市消防団副分団長

島原市消防団副分団長

諫早市消防団副分団長

大村市消防団副分団長

平戸市消防団地区団長

山口 照己

犬塚 勇次

大野 智浩

金子 宗弘

松尾 明人

勢戸 祥市

中瀬 昭

南島原市消防団副団長 松尾 好弘
消防・防災功労（優良団体）
本河内2丁目第1・第2婦人防火クラブ

日本消防協会会長表彰

（令和七年三月七日）

特別表彰まとい 大村市消防団

表彰旗 五島市消防団

竿頭綬 島原市消防団

竿頭綬 東彼杵町消防団

功績章 新上五島町消防団

功績章 長崎市消防団副団長

北原 和好 外十七名

精績章 佐世保市消防団副団長

平井 照博 外四十二名

勤続章 壱岐市消防団副団長

安川 昭彦

外百六十六名

長崎県消防協会会長表彰

竿頭綬（無火災）

長崎市消防団（第二十二分団、第

五十四分団、第六十五分団）、島原

市消防団（第一分団、第十四分団、

第二十一分団）、松浦市消防団（第

十五分団、第二十分団）、雲仙市消防

団（国見支団第十四分団、吾妻支団

第四分団、小浜支団第六分団、同第

十分団、南串山支団第六分団）、新

上五島町消防団（有川地区第七分団、

同第九分団、新魚目地区似首分団、

上五島地区網上分団、同地区自動車

第一分団）

感謝状

退職市町長

前長崎市長

前佐世保市長

前壱岐市長

前時津町長

退職消防団長

前長崎市消防団長

前佐世保市消防団長

前五島市消防団長

消防事務担当者

前佐世保市消防局総務課

前諫早市総務部危機管理課

前大村市安全対策課

前壱岐市消防本部総務課

前波佐見町総務課

前新上五島町有川支所

前新上五島町奈良尾支所

（以上令和六年度長崎県消防団大会）

特別有功章

対馬市消防団分団長

有功章

大石 瑞樹 外二百四十七名

五島市消防団副団長

坂本 力 外五百五十九名

田上 富久 様

朝長 則夫 様

白川 博一 様

吉田 義徳 様

鉄川 恵一 様

中野 篤司 様

神之浦伊佐男 様

川中 哲也 様

高比良恒平 様

前田 哲弘 様

山田 敬吾 様

平 謙太 様



表彰状

佐々町消防団副分団長

北川 仁

精績章（金・銀）

西海市消防団分団長

木下 和浩

感謝状（一号～四号）

元南島原市消防団地区団長

北田 幸一 外八百二十七名

（以上令和七年消防出初式）

第七十七回長崎県消防団大会

令和六年六月十六日、第七十七回長崎県消防団大会を壱岐市の壱岐の島ホールにおいて、開催しました。

大会には、受章者、来賓、県内消防団等、一般参加者を含め、あわせて約

五百五十名の参加がありました。

消防団大会は、県内の消防団員が一堂に会し、消防防災に功績のあった方々の功績を称え、ともに情報交換を行うことによって、消防団員の士気の高揚と消防防災意識の一層の啓発を図り、消防団の活性化に資することを目的としております。

消防協会総裁の大石知事は、表彰を受けられる方々へのお祝いの言葉と、日頃より昼夜を問わない消防団活動に対し、深く敬意を表し、感謝を述べられました。

式典においては、叙勲の披露、知事による表彰の伝達、消防団活動協力事業所の表彰、県民表彰の披露、県消防協会会長による日本消防協会会長表彰の伝達、永年の無火災消防団の表彰、退団された消防団長への感謝状の授与などがありました。

これに対し、受章者を代表して平戸市消防団の辻倉幸団長が、今後とも、市民、町民の安心・安全のため努力を惜しまない旨の謝辞を、熱意を込めて述べられました。

後半の部では、「第四十七回九州地区消防職員意見発表会」において最優秀賞を受賞された平戸市消防本部の銚屋慎太郎氏による意見発表は、きまきまでしたが、地元壱岐市消防団声辺地区第一分団班長の篠崎康輔氏による、活動発表がありました。

また、アトラクションとして、壱岐市消防団ハミングバードによる演奏が披露されました。

そして、地元彦岐市消防団の安川団長から「消防人の団結のもと郷土を災害から守り、県民の信頼と負託にこたえる」との大会宣言がありました。

結びとして、次回開催市である西海市消防団の永田団長が「消防団は、地域防災の要として、住民と協力して災害の防除に万全を期する」と、力強く決議表明され、大会は盛会のうちに終了しました。

第三十八回

長崎県消防ポンプ操法大会

令和六年八月四日、第三十八回長崎県消防ポンプ操法大会が、二年ぶりに県消防学校(大村市)で開催されました。

この大会は、消防技術の向上と士気の高揚を図り、消防団の活性化に寄与することを目的に、長崎県との共催で二年毎に開催しているものです。

競技には、ポンプ車操法の部十一チーム、小型ポンプ操法の部十チームが出場しました。

当日は、炎天下のなか、出場選手たちは、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮し、激戦が繰り広げられました。

成績は、ポンプ車操法の部では彦岐市消防団チームが、小型ポンプ操法の部では、五島市消防団チームがそれぞれ優勝を果たし、彦岐市消防団チームの全国大会出場が決定しました。

成績は次のとおりです。

ポンプ車操法の部

優勝…彦岐市消防団

準優勝…五島市消防団
第三位…雲仙市消防団
小型ポンプ操法の部

優勝…五島市消防団

準優勝…彦岐市消防団
第三位…東彼杵町消防団

第三十回

全国消防操法大会

令和六年十月十二日、宮城県利府町の宮城県総合運動公園グランディ21において、第三十回全国消防操法大会(消防庁・(公財)日本消防協会主催)が開催されました。

この大会は二年に一回開催されるもので、各都道府県の予選を勝ち抜いた四十七消防団(不参加一県の消防団)がポンプ車の部と小型ポンプの部に分

かれて、速さ、正確性、規律の正しさ等を競い合いました。

長崎県代表の彦岐市消防団は、ポンプ車の部に出場しました。

結果は、総合得点では同点ながら、タイム差で惜しくも準優勝を逃しましたが、優良賞の荣誉に輝きました。

また、三番員として出場した、長島幸輝選手は、個人の部において、ポンプ車の部三番員の優秀選手に選出されました。

なお、ポンプ車の部は福岡県新宮町消防団、小型ポンプの部は岡山県高梁市消防団が優勝しました。

第三十回全国

消防操法大会に参加して



彦岐市消防団
芦辺地区第一分団
団員 長島幸輝
(ポンプ車の部三番員)

令和六年十月十二日に開催された全国消防操法大会にポンプ車の部の三番員として出場させて頂きました。私が活動する彦岐市では六月三十日に六年ぶりに市大会が開催され、八月四日に県大会が開催されました。

そのため、本格的に練習を始めた四月から、半年間を超える期間を操法大会に向けて練習することとなりました。自分自身、消防団に入団して一年も経っていませんでしたので、操法大会というものを見たこともなく、どうい

う事をやるのかも分からない状況でした。「今回の操法大会で選手に」という話を聞いた時は、何も分からない自分に来るのかと不安の気持ちしかありませんでした。しかし、分団長、指揮者をはじめ、先輩の方々の消防団、そして操法というものに対する熱い思いを聞くうちに自分もやりたいと思うようになり、是非やらしてほしいですと返事をさせて頂きました。

「皆様への感謝を胸にジョウシヨウ(上昇、常笑、常勝)」というチームスローガンを掲げ、毎日の練習に取り組み、時にはぶつかり合いながら、お互いを高め合い、励むことができました。県大会優勝では八年ぶりに彦岐市に優勝旗を持って帰ってくることができ、自分自身本当に自信になりました。そして必ず全国大会で優勝して、この分団を日本一にしたいと思うようになりました。

私が所属する彦岐市の芦辺地区第一分団は、全国でも一目置かれる常連というところもあり、プレッシャーは多々ありました。しかし、分団の方々、消防署の方々、地域の方々の沢山のアドバイスや温かい言葉をかけて頂いたことで、何とか気持ちを維持して練習に取り組むことができました。

そして何より、毎日の練習で夜遅くに帰ってくる夫に対して、特に何も言わずに快く送り出してくれた家族には本当に感謝しかありません。

全国大会では、思い描いた操法をすることができず、優勝することは叶い





ませんでした。本当に悔しかったです。しかし、チームとして優良賞、三番員として最優秀賞に選ばれたことができました。これも、支えてくださった全ての皆様のおかげだと思っています。この分団でやってきたことは間違いではなかったと証明することができたんじゃないかと思っています。

今では、消防団に入って良かったと強く感じています。そして、今回選手として選んでもらった事に、とても感謝しています。

近年、操法大会に対して厳しい声を聞くことが多くあります。しかし、自分自身初めて操法大会を経験して、実際に火事の現場に行った時に今回の経験は本当に大切で、これからも続けてい

くべきだと思います。

また、今回の全国大会の結果で自分たちだけでなく、他の分団の方々、自分を含めこれからの消防団を担う後輩たちにとっても、いい刺激になったと思っています。

この大会で得た経験を消防団の本来の目的である地域の安心安全を守るという使命のために、今後の消防団活動に活かしていきたいと思っています。

全国消防殉職者慰霊祭

第四十三回全国消防殉職者慰霊祭が、十月三日、ニッショーホールにおいてしめやかに行われました。

式典では、秋本日本消防協会会長の式辞のあと、石破内閣総理大臣、村上総務大臣及び遺族代表等が、新しく祀られた三柱を含む五千七百九十柱の御霊に追悼のこたばを捧げられました。その後、参列者の方々による献花が、厳粛のなかに執り行われました。

長崎県消防殉職者慰霊祭

令和六年十一月九日、長崎県消防殉職者慰霊祭が、長崎県庁一階の大会議室において、県との共催により、厳粛に行われました。

この慰霊祭は、防災の任務遂行中に不幸にして尊い犠牲となられた長崎県内の消防殉職者並びに消防協力受難者

の功績を称え、深く敬意と感謝を捧げるとともに、これらの方々の冥福を祈り、在りし日の面影を慕い、志を同じくする者の範とすることを趣旨とし、ご遺族及び消防関係者等の出席のもと行われました。

会場には、明治時代からの消防殉職者三百八柱が祀られ、黙祷の後、県消防協会総裁の長崎県知事の式辞に続き、県議会議長、県町村会会長及び県消防長会会長の慰霊のこたばをいいただき、その後、ご遺族や消防関係者などから献花が行われ、約百二十名の出席者が、ご冥福をお祈りしました。

最後に、県消防協会の川上会長が、お礼を述べるとともに、郷土の安全・安心を確保するため、一層の努力を重ね、消防活動に邁進することを誓いました。

第二十九回全国女性消防団員

活性化とちぎ大会

令和六年九月十九日、ライトキューブ宇都宮において、第二十九回全国女性消防団員活性化とちぎ大会が開催され、全国各地から約三千名余の女性消防団員が一堂に集いました。

「とち乙女♡から広げよう！未来を担う地域防災の力」の大会テーマのもと、本県からは、長崎、佐世保、諫早、大村、松浦、対馬、壱岐、五島、西海、雲仙、南島原、波佐見及び新上五島の各市町消防団及び事務局も含めて、五十八名が参加しました。

大会では、吉本興業所属の森三中の大島美幸さんの講演をはじめとして、全国から七つの消防団から活動事例発表や防火防災啓発劇が披露され、大いに盛り上がりました。

第二十九回女性消防団員活性化 とちぎ大会に行ってきました



波佐見町消防団
本部分団
団員 一瀬 若菜

この活性化大会は、全国を8ブロックに分けて毎年実施されていますが、九州ブロック（佐賀県）での開催を除くと、入団13年で初めての参加となりました。今回の栃木県は非常に遠く、空港がないこともあり到着に半日以上かかる場所です。なぜ波佐見町という小さい規模の消防団に所属する私が今回参加できたのかは、理由があります。次回（令和7年）、第30回大会が長崎県で開催されるからです。

例年、次回開催地は大会で開催PRを行います。長崎県では令和6年2月から各市町の女性消防団員から最低1名が運営委員となり、チラシ・PRブース・ステージ班に分かれ、とちぎ大会でのPR準備を行いました。最近ではWEB会議も普通になったことから、島にいる委員もWEB参加やLINE連絡を駆使して話し合いを重ねました。やりたいことが本委員会の上

組織から許可がとれなかったりと、みな四苦八苦しなから、でも楽しく長崎の良さを全国に知らせようと準備を進めていきました。

大会前日朝に長崎空港に集合し、栃木県の会場に到着したのは渋滞もあり夕方となりました。それからステージのリハーサルやブース展示の準備を行い、夜には本番に向け、懇親会を行いました。

翌日の大会当日、様々な活動事例や啓発劇・アトラクションなどが催され、ロビーでの全国各地の女性消防団の活動報告パネルと会場での発表を行き来しつつ、PRブースでも行き交う人呼びかけを行いました。

すっかり次回大会のPRも行ってきましたが、これまで他市町の女性消防団員に話を聞いて参加したいと思っていたところ念願の機会だったので、たくさん勉強もさせていただきました。

活動事例はどれも参考になるものばかりでしたが、特に印象に残ったものが1つあります。岐阜県可児市女性消防分団による発表「ジブンゴト化を目指した私達の啓発活動ーアラコとトイレー」です。

タイトルを見たときは「アラコとは何だ?」と疑問に思いました。実はこの「アラコ」とは、可児市女性消防分団が作った「女性型AED練習用人形」です。通常の練習用人形に手足を付け、かつら・化粧・下着を含む女性服を着せたもので、遠目には人に見えます。きつかけは女性へのAEDの使用率の

低さで、服を脱がせるのに躊躇してAEDが使用されない、という事例があることです。実際に女性の見た目と服を着せることにより「思ったより脱が



せなくて良い」というより現実的な疑似体験してもらい、いざというときのAEDの使用率を上げることが目的です。非常によいアイデアだと思つたため、後日、さっそく地元の訓練・研修会で取り入れさせていただきました。まだ数えるほどしか実施できていませんが、受講者からも好評で、特に女性からの共感が高いと感じました。

PRチラシ・PRブースの出番は大会開催中でしたが、ステージ班の出番は閉会式です。このときのために5分程度のPR動画を用意しました。「つながる」をテーマに各市町女性団員に

協力してもらい作り上げたもので、各市町の観光地などをバックにひと言メッセージを発信します。動画の最後では、次回会場(出島メッセ)の場所ゆかりで鈴木長崎市長に出演していただきました。動画の後は参加した長崎県の女性団員全員で、ステージ上で次回大会をアピールしました。

夕方には意見交換会が立食形式で行われました。屋台のように餃子やケーキが用意されており、なかなかの混雑でしたが隙をぬって全国の女性消防団員の皆さんと名刺交換や意見交換を行いました。みな生き生きとされており、地域のためにやれることをやろうとする熱意を感じました。

結びになりますが、今活性化大会の参加や活動を支援していただいた町、委員会運営や参加行程等の準備をしていただいた消防協会や県の皆さま、また一緒にPRの準備を行った運営委員の皆さま、さらに当日大会参加によりPR活動を実施していただいた各市町の女性消防団員の皆さま、ありがとうございました。しかし、終わりではありません。この大会の経験を、次回長崎大会に生かし、よりよい活性化大会となるよう尽力して参りたいと思います。

長崎大会のテーマは「来んねー平和の街へ 島々へ 未来へ、長崎でつながる女性消防団」です。みんなが協力し合い、よりよい未来へとつながっていく大会となることを願います。

第四十七回

消防職員意見発表会最優秀賞

「声の力を最大限に」

平戸市消防署 消防士 鋒屋 慎太郎



「大丈夫ですか」
今、皆さんは、私
に対してどんな印象
を持ちましたか。
人の第一印象は約

3秒で決まります。

となると、皆さんの、私に対する第一印象は既に決まっているのです。

これは私達救急隊と傷病者でも同様です。接触し、声掛けをした段階で救急隊に対する第一印象は決まるのです。私はこの声掛けをする数秒間で、現場に存在する不安を安心に変える事が出来ないか考えてみました。

そう考えるきっかけとなったのは、ある一件の救急現場でした。私が傷病者に対し声を掛けると、開口一番に、「怖い」

この傷病者は高齢の女性。私は、始め何が怖いのか分かりませんでした。が、すぐにその対象は、助けに来たはずの私だと気づいたのです。私は元々早口で、声がかもり聞き取りづらい声でした。その為現場では、ハキハキ大きな声で話す事を常に大事にしています。しかし、一番大事にしている事を意識するあまり、どの傷病者に対しても、一辺倒の声掛けしか出来ていなかったのです。

この現場を通し、私は第一印象について調べてみました。

第一印象は、視覚・聴覚・言語の三つの情報から成り立っています。これは、メラビアンの法則とも言われ、視覚が五割、聴覚が四割、言語が一割とされています。

近年では、多くの方がマスクを着用し、表情から感情を読み取る事が難しい経験をされた方もいるのではないのでしょうか。救急隊は標準予防策を徹底する為、傷病者からは表情どころか殆ど顔すら見えていません。となると救急隊は傷病者に対し、視覚による安心の提供が難しい事は言うまでもありません。

そこで私は、聴覚に重点を置き、聴覚からの安心を提供する為に、自分の発する声について、抑揚・トーン・速度の三つの点に注目しました。

話に抑揚をつけることは、相手に伝えたい事を明確にできる反面、全ての世代で同じ抑揚のつけ方をすると、かえって聞き取りづらくなる場合があります、各年代に沿った抑揚のつけ方をしなければならぬと感じました。

声のトーンについては、聴覚機能によって、聞こえ方が変化し、高い声が聞きとりづらい方には、あえて低い声で話す方がより鮮明に聞こえるのだと分かりました。

話をする速度については、早口で話してしまうと年齢に関係なく聞き取りづらくなります。そこで通常よりも口を大きく開く事で自然とゆっくりとし

た話し方に変化したのです。

抑揚は年齢、トーンは機能力、速度は誰にでもと、この三点の組み合わせを変えて会話をする事が、聴覚から安心を提供する為には、重要だと実感したのです。

これを身に着ける為に私は、現場に限らず、日常生活の会話においても常に意識し、実践するようにしたのです。すると、ある日の現場。私が声掛けをした時、突然、

「貴方の声は安心するね」と一言。

私の声が傷病者の心に安心を届けた瞬間でした。

年齢、性別、環境、私達が駆けつける現場は多種多様、同じ現場はありません。しかし、共通することが一つだけ、それは、人は必ず不安を抱えているという事。

その不安を、私の声が安心へ変えていく。

この声があなたの心に寄り添う。この声があなたの心を包み込む。私の信じる、声の力を最大限に。

第77回

長崎県消防団大会意見発表



彦岐市消防団
芦辺地区第一分団
班長 篠崎 康輔

皆様こんにちは。ようこそ彦岐市へお越し下さいました。心より歓迎申し

あげます。私は彦岐市消防団芦辺地区第一分団班長の篠崎康輔と申します。

本日は、私が今までに消防団活動で経験したことをお話しさせて頂きます。

私が消防団に入団したのは、実家の建築資材販売業を継ぐために、島外から帰郷した平成12年、今から24年前のことです。

入団しようと思ったきっかけは、帰郷する2年前に兄の応援で足を運んだ平成10年に開催された全国消防操法大会でした。当時団員でもない素人の私が、観客席から見た初めての操法は、濃紺の制服に白いヘルメット、手袋、脚絆姿の選手が一つ一つ規律のとれた動きをし、その姿が大変にかっこよく、いつの間にか魅了されています。

その後、帰郷した私は、何の迷いもなくすぐに消防団へ入団し、そこで操法の選手をさせていただく事となりました。平成20年には小型ポンプの部で全国大会準優勝、その時は1番員の優秀選手に選んでいただきました。平成26年には、ポンプ車の部で、念願の全国制覇を達成することができました。私の父が、昭和57年に全国大会にポンプ車の部で2番員として出場し、優勝しておりましたので、親子で、しかも同じポンプ車2番員として全国大会優勝を成し遂げることができたことは、感慨深く喜びもひとしおでした。

多くの貴重な経験をさせて頂いた24年間の消防団活動において、操法大会は大きな活動の一つではありましたが、もう一つ忘れられない経験があ

ります。

それは、平成17年に発生した、福岡西方沖地震です。その日は休日でしたので、私と妻、5歳の長女、3歳の次女の4人で家で過ごしていました。

何の前触れもなく突然家が揺れだし、私自身何が起きているのかわからず戸惑いました。家の外では今まで聞いたことがないようなバタバタという大きな音が聞こえてきました。揺れが収まり、店の様子を見て、商品の材木がバタバタと倒れる音だったことがわかりました。そうしているうちに津波注意報が発令されました。私の自宅は海から大変近いので、家族を連れて高台へ逃げるべきか、このまま家にいても大丈夫なのか、家族をどう守るべきなのか、その時は考えても正解がわからなかったのが正直なところです。

とりあえず二階にいれば大丈夫だろうと当時は判断しましたが、東日本大震災の津波を知った今では、すぐに高



台へ避難しなければならぬと考えています。地震の混乱、津波の情報があやふやな中、今度は建物火災が発生しました。この時は、消防団員として建物火災に出動するべきか、おびえる家族と一緒にいるべきか・判断を迫られる場面となり、本当に悩んだことを今でも覚えています。とりあえず家族は自宅の2階にいれば大丈夫だろうと苦渋の判断をし、建物火災へ出動したのですが、この判断は正しかったのか、今でもわかりません。

この経験から気づいたことは、我々消防団員も被災者になりうるという事実です。本年1月に発生した能登半島地震が記憶に新しいところですが、九州地区でも平成28年に発生した熊本大地震は大きな衝撃でした。本県でも、34年前に発生した雲仙普賢岳の大火砕流で、警戒にあたっていた地元消防団員を含む多数の死者、行方不明者が出ております。

今や、地震に限らず様々な大規模災害が全国各地で頻発しています。

それぞれの被災地域にも消防団があり、そこに所属する消防団員も被災者です。もちろん家族もいらつしやと思います。それぞれの団員一人一人が自分の被災状況を把握し、悩みながら出動ができる方は出動されているのだと思います。

大規模な災害が発生した場合、常備消防の到着や自衛隊の救助が入るまで

は一定の時間がかかります。

人々で手伝ってくれる方はたくさんいると思いますが、現場にいち早く到着し、より安全性を確保しながら活動ができるのは、ヘルメットや安全靴、手袋といった最低限の装備を日頃から所持しており、迅速に指揮命令系統に入る事が出来る地元消防団です。

災害時には被災者でありながらも、救助等に人手、マンパワーが必要不可欠であることを考えると、消防団員の維持、増員には力を入れなければいけない喫緊の課題だと強く感じています。しかし、今、消防団員の減少や若手はいるけれどもなかなか入団までに至らないという現実があります。消防団への入団となると、何かきつそうだが、面倒だ、操法が大変そうというイメージだけが先行し、なかなか団員の増強につながっていません。

現在、苓崎市消防団では、安川団長を筆頭に消防団改革が行われており、操法大会の練習にかかる負担軽減、実火災出動範囲の調整など、出来るだけ団員の負担とならないような取り組みが進められています。

私にできる事は限られていますが、地元の若い世代の感覚を理解し大事にしながら、地域の防災・減災のために消防団員の必要性を伝え、新しい世代に消防団を繋いでいければと思っています。

ここからは提案になりますが、入団のメリットとして、救命救急講習や無線の取り扱い、AED取扱いなど、消防団員としても、また、地域住民に寄

り添う防災リーダーとしても必要な知識となる各種講習を充実させてはどうでしょうか。また、ヘッドライトの貸与やゴーグル、高性能の耐火服など機能的にはもちろんのこと、見た目的にも良い団員の装備をもっと充実させてみてはどうでしょうか。

これらには予算が必要となりますので、本日まで参加の県協会長をはじめ各市町の団長さん、ぜひ消防団員確保のための予算を国、県、市町へしっかりとアピールと要望をお願い致します。

最後になりますが、これまでの消防団活動で培った経験や知識を活かし、大切な家族や地域の方々を守るよう、今後の消防団活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

令和六年度

理事会・評議員会情報

第一回理事会 (五月十六日)

(第一号議案)

令和五年度の事業報告が承認されました。

(第二号議案)

令和五年度の決算が承認されました。

(第三号議案)

令和六年度資金運用管理方針が承認されました。

(第四号議案)

第七十七回長崎県消防団大会について、原案どおり承認されました。

(第五号議案)

第三十八回県消防ポンプ操法大会に

ついて、原案どおり承認されました。

(第六号議案)

令和六年度長崎県消防殉職者慰霊祭の実施について、原案どおり承認されました。

(第七号議案)

第三十回全国女性消防団員活性化長崎大会の準備について、原案どおり承認されました。

(第八号議案)

定時評議員会の招集について、原案どおり承認されました。

(その他)

消防団大会における表彰の選考、自治体消防七十五周年記念大会、総務大臣書簡など諸般の報告がなされました。

定時評議員会 (五月三十一日)

(第一号議案)

令和五年度決算が承認されました。

(第二号議案)

補欠評議員五名の選任が決議されました。

(第三号議案)

補欠理事三名及び補欠監事二名の選任が決議されました。

(その他)

理事会決議事項ほか諸般の報告がなされました。

臨時理事会 (五月三十一日)

(第一号議案)

副会長(長崎・西彼ブロック)の選定において、長崎市消防団団長の山口照己理事が選任されました。

(その他)
県ポンプ操法大会の競技順番の抽選が行われました。

第二回理事会 (十一月九日)

(第一号議案及び第二号議案)

令和七年度事業計画案と収支予算案は、原案どおり承認されました。

(第三号議案)

令和七年度の消防協会運営費に係る市町負担金について、原案どおり承認されました。

(第四号議案)

第七十八回長崎県消防団大会の開催について、承認されました。

(第五号議案)

第二十六回全国女性消防操法大会について、承認されました。

(その他)

第三十回全国消防操法大会の結果等について報告がありました。

評議員会

(十一月九日)

理事会で決議された事項のほか、諸般の報告がありました。

情報交流会

(十一月九日)

理事、評議員のほか、各消防本部の消防長も参加し、情報交流会を開催しました。

消防団員指導員課程研修

令和六年十一月五日から六日まで、令和七年度消防団員指導員課程研修を

県内の四市一町の消防団から十三名の参加により、長崎県消防学校において実施しました。

この研修は、日本消防協会の委託によるもので、消防団運営の活性化に資するため、消防学校の協力を得て、消防団の中に指導者となる指導員を養成し、地域防災の要である消防団員の充実強化を推進するものです。

訓練一日目は、県消防協会の谷口副会長による実体験をもとにした「幹部心得」の講話のあと、訓練礼式、火災防ぎよ(ホース延長)については、教官による展示のあと、入校生主体の訓練を実施、他の入校生に指導員役として指導事項を考え、伝える場面を設けるなど、指導員の育成を図りました。

さらに救助・救命活動においては、消防団員として、要救助者の救出時における搬送方法について指導しました。



二日目は、座学で、「現場指揮・安全管理」「災害情報収集・伝達」を実施しました。座学では、現場指揮の必要性、安全管理の重要性、災害時の情報収集などの難しさを感じていただき、実際に無線を活用して、得た情報を無線で報告する机上訓練なども行いました。

午後は「火災防ぎよ(ポンプ運用)」を実施し、ポンプ車及び小型ポンプを使用して、有圧及び無圧水利の違い、中継要領、筒先統制の要領などの指導をしました。

この研修の実施により、多くの指導員を県内消防団に送り出すことができ、その成果が得られたものと思われま

長崎県市町消防団担当者会議

令和六年八月二十七日、長崎県市町消防団担当者会議を、県内十四市町から十五名の参加のもと開催しました。

会議では、日本消防協会から藤中次長、門松副主査、小久保係員の三名をお招きし、消防個人年金・福祉共済や火災共済について説明を受けました。また、県の木下主事及び県協会から全国女性消防団員活性化長崎大会について説明がありました。

女性消防団員研修会

令和七年三月八日、第二十二回長崎

県女性消防団員研修会を長崎市内の会場において、県内十三市六町の消防団から消防団長及び女性消防団員百余名の参加により開催しました。

今回は、来年度本県で開催する全国女性消防団員活性化長崎大会にあわせ、講演、グループワークを行いました。

第五十一回消防団幹部特別研修

令和七年一月十四日(火) 一月十七日(金)

受講者 壱岐市消防団 団長 安川 昭彦

第二十四回消防団幹部候補中央特別研修 (男性消防団員の部)

令和七年一月二十九日(水) 一月三十一日(金)

受講者 長崎市消防団 班長 滝 雄幸

島原市消防団 分団長 川内 雄貴

新上五島町消防団 部長 江濱 和直

第二十四回消防団幹部候補中央特別研修 (女性消防団員の部)

令和七年二月十九日(水) 二月二十一日(金)

受講者 島原市消防団 団員 馬場 智夏

令和 6 年 1 月～12 月の火災概況(速報値) [長崎県消防保安室調べ]

区分	令和 6 年 (A)	令和 5 年 (B)	増減	増減率 (%)
			A - B = C	C / B × 100
出火件数	375	437	△ 62	△ 14.2
(建物)	178	197	△ 19	△ 9.6
〈住宅〉	84	110	△ 26	△ 23.6
(林野)	6	25	△ 19	△ 76.0
(車両)	28	37	△ 9	△ 24.3
(船舶)	6	3	3	100.0
(その他)	157	175	△ 18	△ 10.3
焼損棟数	297	272	25	9.2
り災世帯数	183	151	32	21.2
り災人員	377	351	26	7.4
焼損面積 (建物 (㎡))	13,373	10,256	3,117	30.4
(林野 (a))	34	281	△ 247	△ 87.9
損害額 (千円)	395,411	575,859	△ 180,448	△ 31.3
死者	22	15	6	40.0
〈65歳以上〉	12	9	3	33.3
〈住宅〉放火自殺者を除く	10	7	3	42.9
負傷者	62	50	12	24.0

注)「死者」には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。

●出火原因 (ワースト5)

年	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
令和 5 年	たき火 (124)	たばこ (29)	コンロ (19)	電灯・電話等の配線 (17)	放火 (16)
令和 6 年	たき火 (86)	たばこ (24)	コンロ・放火 (18)	ストーブ (10)	電灯・電話等の配線 (8)

注 1) 畑で枯れ草等を燃やす場合も「たき火」という。

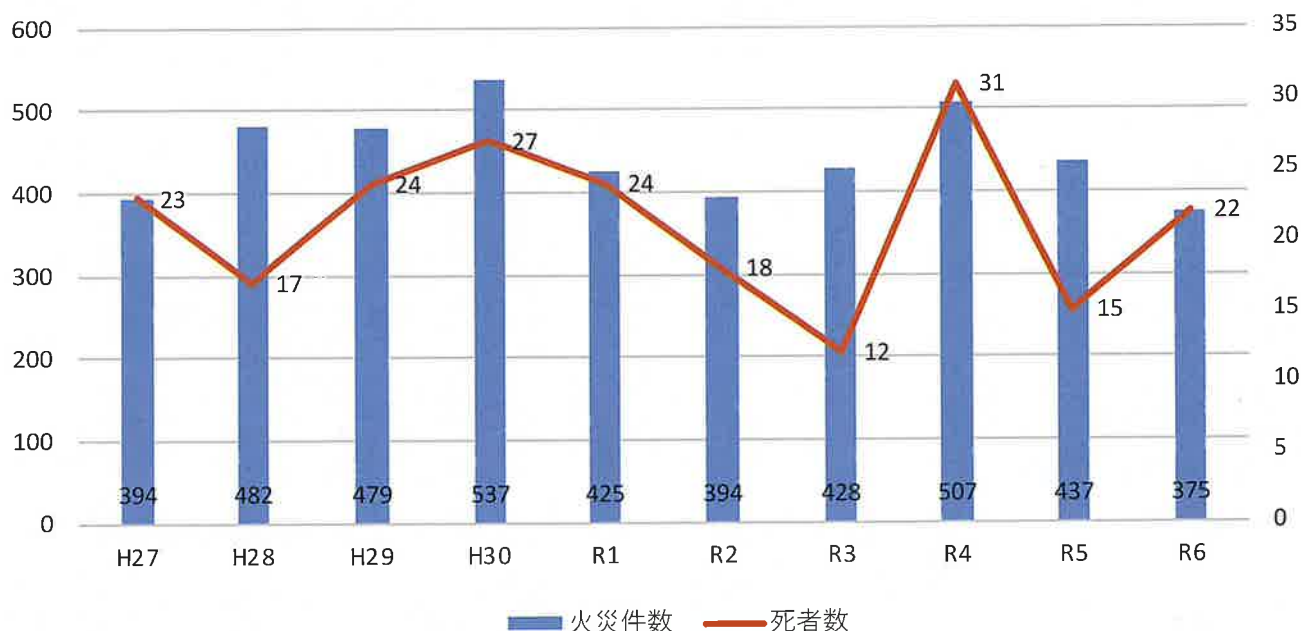
注 2) 「放火」には「放火の疑い」を含む。

令和 6 年中の火災件数 (月別／火災種別) (速報値)

月	合 計	火 災 件 数										焼損面積		火災 損害 額 (千円)	焼 損 棟 数	り 災 世 帯 数	り 災 人 員	負 傷 者	死 者	
		建 物 計						林 野	車 両	船 舶	航 空 機	そ の 他	建 物 床 面 積 (㎡)							林 野 (a)
		住 宅 計			そ の 他															
		住 宅	併 用 住 宅	共 同 住 宅																
1月	30	18	13	10	1	2	5		2		0	10	1,067		46,880	29	17	34	6	3
2月	27	14	8	8			6		2			11	1,129		36,884	27	19	31	7	2
3月	40	22	14	11		3	8		1	2		15	1,297		52,625	34	20	36	5	6
4月	17	11	7	7			4		1			5	817		14,623	16	9	18	2	2
5月	46	14	6	6			8	1	6	1		24	1,740	5	123,667	29	19	44	5	2
6月	25	14	8	7		1	6		1			10	357		8,895	14	9	20	3	
7月	24	12	6	3		3	6		2			10	1,472		79,322	22	16	27	3	2
8月	38	16	7	6		1	9					22	1,340		9,210	28	12	29	5	2
9月	39	16	10	8		2	6	2	3	1		17	1,057	29	5,507	34	23	37	11	
10月	32	10	4	2		2	6	2	5			15	235		2,379	11	8	18	4	
11月	21	11	7	6		1	4	1	4			5	472		5,193	13	7	15	3	3
12月	36	20	14	10	1	3	6		1	2		13	2,390		10,226	40	24	68	8	
計	375	178	104	84	2	18	74	6	28	6	0	157	13,373	34	395,411	297	183	377	62	22

※「住宅火災」の件数は「住宅」、「併用住宅」、「共同住宅」の合計数となる。

令和6年中の火災件数と火災による死者数



令和7年度 主な行事予定

行 事 名	期 日	場 所
第1回理事会	5月15日(木)	長崎市
定時評議員会・臨時理事会	5月30日(金)	長崎市
第78回長崎県消防団大会	6月14日(土)	大島文化ホール
第44回全国消防殉職者慰霊祭	9月11日(木)	ニッショーホール
消防団員指導員課程研修	10月8日(水)～9日(木)	長崎県消防学校
第26回全国女性消防操法大会	10月28日(火)	横浜市赤レンガ倉庫
第30回全国女性消防団員活性化長崎大会	11月13日(木)～14日(金)	長崎市
長崎県消防殉職者慰霊祭	11月29日(土)	長崎市
第2回理事会・評議員会	11月29日(土)	長崎市
消防出初式	1月上旬	県内一円
第52回消防団幹部特別研修	1月13日(火)～16日(金)	東京都
第25回消防団幹部候補中央特別研修(男性・女性)	1月28日(水)～30日(金) 2月18日(水)～20日(金)	東京都
第78回日本消防協会定例表彰式	3月6日(金)	東京都

消 防 団 員 数

(人)

消防団名	消防団員数	消防団名	消防団員数
長 崎 市	2,299	雲 仙 市	1,396
佐世保市	1,429	南島原市	1,203
島 原 市	577	長 与 町	284
諫 早 市	1,363	時 津 町	224
大 村 市	562	東彼杵町	323
平 戸 市	973	川 棚 町	234
松 浦 市	770	波佐見町	265
対 馬 市	1,325	小値賀町	132
壱 岐 市	794	佐 々 町	166
五 島 市	951	新上五島町	755
西 海 市	1,069	合 計	17,094

(令和6年10月1日現在)

画 古賀妃可里（こが ひかり）さん（松浦市立御厨小学校五年） 公益財団法人 長崎県消防協会 令和六年度長崎県防火ポスターコンクール最優秀賞

